



津南町に建設される雪冷熱活用データセンターのイメージ。雪山(後方)からサーバーのあるコンテナ型の建物(手前左側)。稼働当初は1棟へ冷水を送る(県提供)

津南の雪冷熱データセンター

稼働は来年4月 県、正式発表

県は11日、雪をコンピュータの冷却源に使う「雪冷熱活用データセンター(DC)」を、津南町に建設すると正式に発表した。電気通信業のアオスワールド(新潟市東区)など4社でつくる共同企業体が運営し、2016年4月に稼働させる。

県によると、雪冷熱DCは国内でも珍しく、県内では初めて。DCは電子化した情報を保管する施設で、特に夏はコンピュータのサーバーの冷却が必要となる。県は整備、運営する事業者を公募。同社とIT関連企業のゲットワークス(さいたま市)、同じくフラワーコミュニケーションス(東京都)、総合建設コンサルタントのドーコン(札幌市)による共同企業体だけが応募した。

計画では、DCは津南町中心部から山寄りの中深見甲に建設。ことし11月末以降に集める3100立方分の雪を高反射・

県によると、雪冷熱を使ったDCは青森県で今秋完成予定。県は首都圏に比較的近い本県で雪冷熱が実用化できることを示し、県内への立地促進を図りたい考え。DCのうち冷却施設の設計・建設費と運用費を負担し、事業費に1億1千万円を計上している。

高断熱シートで覆って保管し、冷やした水をサーバーのある建物に送り、冷房する。16年4月下旬から9月上旬までの135日間、12万9600時間の電力が必要などところを、約5割の6万7900時間に削減できる見通し。将来は企業体の負担で設備を増やす計画だ。

一方、津南町は用地約5千平方分を無料で貸すほか、集雪に協力する。上村憲司町長は「負のイメージで捉えられてきた雪が、広く社会に貢献することを実証できればありがたい」と話した。

泉田裕彦知事は11日の記者会見で「雪を活用し、省エネルギーや地域の雇用につなげたい。雪冷熱活用モデルケースになればいい」と述べた。

県によると、雪冷熱DCは国内でも珍しく、県内では初めて。DCは電子化した情報を保管する施設で、特に夏はコンピュータのサーバーの冷却が必要となる。県は整備、運営する事業者を公募。同社とIT関連企業のゲットワークス(さいたま市)、同じくフラワーコミュニ

ケーションス(東京都)、総合建設コンサルタントのドーコン(札幌市)による共同企業体だけが応募した。

計画では、DCは津南町中心部から山寄りの中深見甲に建設。ことし11月末以降に集める3100立方分の雪を高反射・